

居安思危

なんこく防災くんの防災情報 87

やす あり あや おも
- 安きに居て危うきを思う -



防災講演会 in 南国を開催します！

高知県では台風や集中豪雨など数多くの自然災害を克服してきた知見やノウハウを活かしたから防災関連製品が数多く生まれています。防災講演会in南国ではこれらの製品を実際に見て触ってもらえるほか、県外の自主防災組織の取り組みや、自主防災組織や住民向けの地震対策について講演を開催します。いざという時のための備えや、今後の防災活動にお役立ていただけるイベントですので、ぜひお申し込みください。

日時：令和元年10月26日(土) 10:00～12:30

場所：南国市役所 大会議室

■申込み先：高知県防災関連産業交流会(高知県工業振興課内) 山岡・北村

☎823-9724 FAX823-9261

シンポジウムのご案内 避難生活を地域住民みんなで考える

避難所生活での健康管理についてみなさんで考えてみませんか？

高知大学医学部の西山謹吾医師をお招きし、災害関連死予防など避難所生活についてのシンポジウムを行いますので、ぜひご参加ください。

日時：10月6日(日)14時～15時30分

場所：岡豊ふれあい館

■問い合わせ：危機管理課 ☎880-6575

知って得する国民年金

国民年金保険料の納付期限は、翌月の末日です。忘れず納めましょう。

国民年金保険料の免除には全額免除と一部免除があるのをご存知ですか？

◆本人・世帯主・配偶者の所得が一定額以下の場合、申請することにより保険料の全額または一部が免除されます。

○全額免除：保険料月額を免除

○一部免除：保険料の「4分の3」、「半額」、「4分の1」を免除

○免除が承認された場合の令和元年度の月額保険料

	全額免除	4分の3免除	半額免除	4分の1免除
免除額	16,410円	12,310円	8,200円	4,100円
保険料	0円	4,100円	8,210円	12,310円

※学生の方は「学生納付特例制度」の対象となります。

◆免除された残りの保険料を納付することにより、

①老齢基礎年金や障害・遺族基礎年金の受給資格期間となります。

②老齢基礎年金額に反映します。ただし、定額納付と比較した場合、年金額は減額されます。

※免除が承認された場合の保険料を納めていない期間は未納扱いとなります。

■問い合わせ 南国年金事務所 ☎864-1111
(自動音声案内に従って②→②と押すと、国民年金課に繋がります。)
市民課年金係 ☎880-6555

親子クイズ 569

Q 謎解き問題です。？に入る言葉はなんでしょう？

2番目 → 『ビーフ』

8番目 → 『ラム』

10番目 → 『？』

【第568回解答】

- ① 花火
- ② 夏休み
- ③ 帰省
- ④ 盆踊り
- ⑤ 焼肉

【第568回当選者】

高橋 崇之 (大浦甲)
岡林 崑代 (岡豊町)
西岡 君江 (岡豊町)
山本 孝文 (国分)
渋谷 幸子 (植野)

■応募締切／10月9日(水)必着

■あて先／〒783-8501

南国市大浦甲2301

南国市企画課「親子クイズ係」

*はがきで応募

■賞品／正解者の中から抽選で、5名に図書カード(1,000円)を贈呈

★応募総数／106通

★正解率／97%

親子クイズは、広報委員が毎月順番に考えています。

101 人権学習シリーズ

この夏、酷暑が続く中、テレビでは終戦日前後に戦争の惨禍を振り返る番組が放映されていた。心に残る場面や、考えさせられる内容が多かったが、中でも原爆投下を受けた広島を舞台にした映画は重いものであった。映画の原作については、以前、本で読んだことがあり、所々読んだ記憶がよみがえったが、ほとんど新たな作品として見ている自分がいたように思われる。自分が被曝したらその後、どうしたのだろうか、否、どうできたのだろうか？そう考える力や体力、命すら失われていた可能性が大きい。もし、生き残れたとして、あの状態で、命を長らえる事はとても大変だっただろうと思われた。

被曝と平和

どうしたら、他人事ではなく、自分の問題として考えられるのか、という問いの答えは簡単には出せないが、こうした映画の持つ力も大きいのではないかと感じられた。また、さらに強く思ったのはこうした残酷な体験をしなくて済む世界になくしては、という事である。私たちは原爆の被害もあり、戦後、憲法で戦力を放棄し、戦争をしないことを謳っている。それは大きなことだが、「戦争のない世界」は戦争に至らない状況を作る不連続の努力なしには実現が難しいように思われる。戦争の過程で日本では対戦国や国際状況への無知や理解不足、兵士や市民の人権軽視が横行していた。戦後、人権尊重や教育の普及は一定進むも課題も残されている。さらに、グローバル化の進む中、世界各地の文化や習俗への理解や交流、国際協力や外交努力は十分なされていないのか、と問えば課題が大きいのではないだろうか。もちろん前進面も多々ある。政府のみならず私たち一人ひとりに戦争に至らないような社会をつくる役割がある。平和を願うとはそういうことではないか、と思う一夜だった。

■問い合わせ

人権啓発広報委員会
☎880-6569